

地誌 第6回「東南アジア地誌① 自然地理と社会・文化」

○今回のポイント

東南アジア地誌 1. 多様な民族と文化

<東南アジア自然地理>

- ・ [① _____] (5 か国) …ミャンマー、タイ、カンボジア、ラオス、ベトナム
- ・ [② _____] (6 か国) …フィリピン、インドネシア、マレーシア、シンガポール、ブルネイ、東ティモール

(1) 地形 (大地形は資料集 p.3 右下地図で確認)

○大陸部

- ・ [③ _____] は新期造山帯。それ以外は安定陸塊と古期造山帯
- ・ [④ _____] …メコン川、チャオプラヤ川、エーヤワディー川の下流部で発達。
- ・ [⑤ _____] …東南アジア最澄の河川。チベット高原を水源として南シナ海にそそぐ国際河川。タイとラオスの自然的国境ともなっている。

○島嶼部

- ・ 大部分は新期造山帯
- ・ フィリピン～ニューギニア島 : [⑥ _____] ⇒ フィリピン海溝
- ・ インドネシアのジャワ島やスマトラ島 : [⑦ _____] ⇒ スンダ海溝(ジャワ海溝)

(2) 気候

○低緯度に位置するので大部分が熱帯雨林気候(Af)とサバナ気候(Aw)。

- ・ [⑧ _____] などは熱帯雨林気候。
- ・ [⑨ _____] はサバナ気候

○季節風の影響

- ・ 7月 は海洋からの湿潤な南西季節風の影響で多雨
- ・ 1月前後は大陸からの乾燥した北東季節風の影響で少雨
⇒ただし、赤道以南の南半球では逆になるので注意(インドネシアのジャカルタなど)

海と陸の交流 (教科書 p.200～)

(1) 交通

- ・ インド洋と太平洋をつなぐ海上交通の要衝 ⇒ 海のシルクロード、[⑩ _____]、香辛料の道

(2) 宗教

○仏教

- ・ [⑪ _____] …大陸部が中心(タイ、ミャンマー、カンボジア、ラオス)。個人の修行による解脱。
- ・ [⑫ _____] …ベトナム(1000年にわたる中国支配の影響)。民衆の救済。

○イスラーム教

- ・ 島嶼部が中心([⑬ _____]) ・ブルネイ・マレーシアなど

○キリスト教

- ・ [⑭ _____] (スペイン領⇒アメリカ領)、東ティモール(ポルトガル領)

○ヒンドゥー教

- ・ インドネシアはイスラーム教だが[⑮ _____]だけはヒンドゥー教(マジャパヒト王国の影響)。

複雑な民族構成

・東南アジアは複数の民族が混在する多民族国家

※ ミャンマー、インドネシアでは自治・独立を求めて少数民族が政府と対立

Cf.インドネシアと東ティモール

インドネシアは蘭領、東ティモールは葡領。1975年にポルトガルが東ティモールの独立を認めた際、インドネシアに併合されてしまった。独立闘争を経て2002年にインドネシアからの分離独立を果たす。カトリックのポルトガル領であった東ティモールでは、カトリック信仰が盛ん。

(1)マレーシア

- ・マレー系…人口の約6割。マレー語を話し、[16]を信じる。
- ・中国系…人口の約3割。華僑・華人。スズ鉱山の労働者として、福建省、広東省から移住。商業・貿易・金融など高い経済力を有する。中国語を話し、[17]が多い。
- ・インド系…人口の約1割。英領植民地時代に天然ゴムプランテーションの労働力としてインド南部から移住(英領インド)。タミル語を話し、[18]を信仰する。

中国系住民が経済的優位に立ち、農村人口の多いマレー系は貧しく民族間で経済格差。不満が高まる！

[19]の展開

マレー語を公用語、イスラーム教を国教とし、教育や雇用などでマレー系を優遇することで、多民族との経済格差の是正を目指す。

(2)シンガポール

○シンガポールの形成

WWII後の1963年、イギリスからマレーシア連邦(現マレーシア+シンガポール)が独立。

しかし、マレーシア連邦ではマレー系優遇政策が展開

[20]年、中国系が分離独立してシンガポールを建国

○シンガポールの公用語

- ・マレー語…設定上の国語はマレー語。
- ・英語…学校教育、ビジネスでは英語中心。
- ・中国語…シンガポールは中国系住民が分離独立したので、大半の日常会話は中国語。
- ・[21]…インド系住民が日常語で使用